

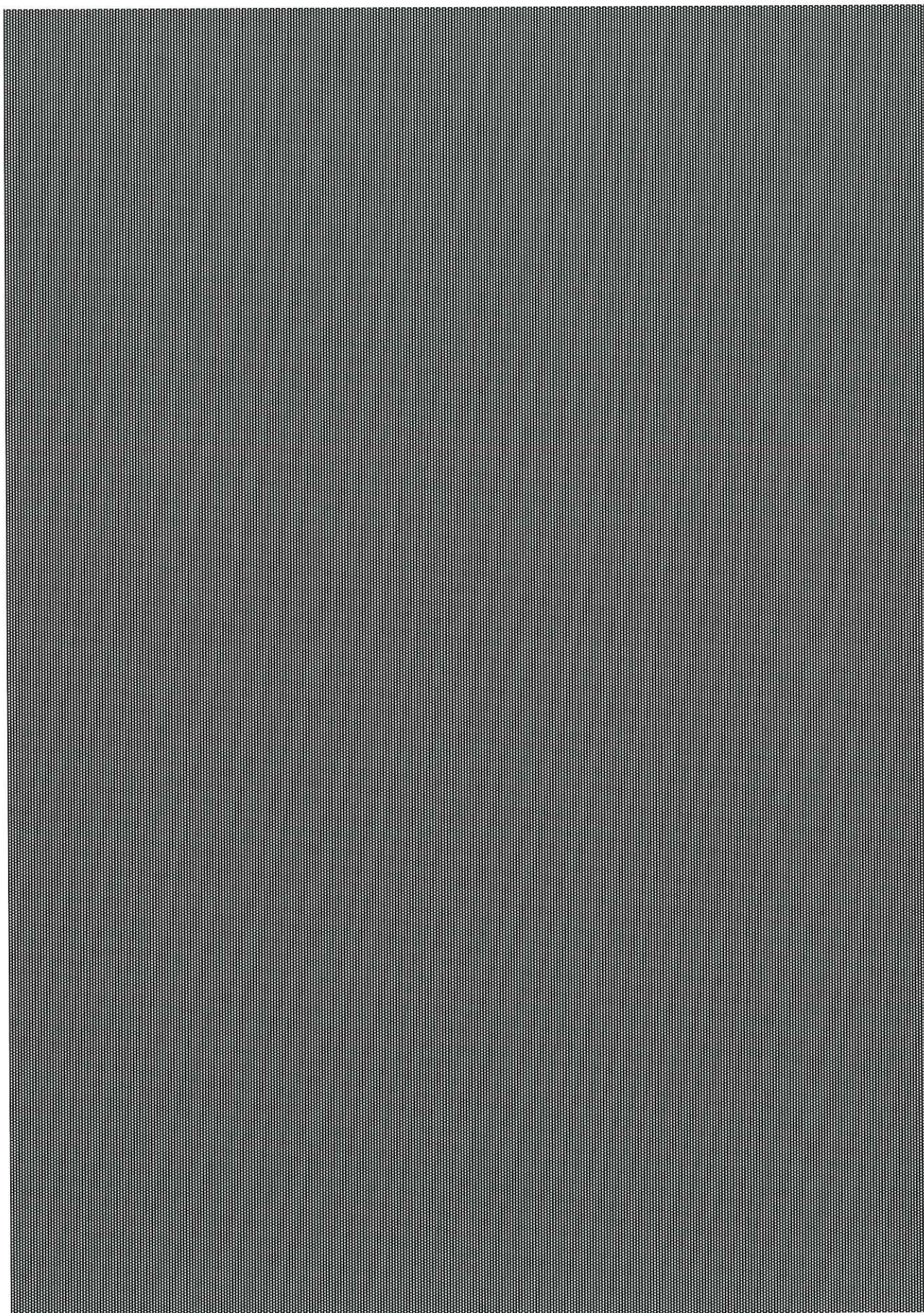
試 験 問 題

論 文 試 験

注意事項

- 1 論文課題A又はBのうち、1題を選択してください。
- 2 論文用紙の「課題」欄に選択した課題の記号のみ（A又はB）を記入し、論文を作成してください。
- 3 論文は日本語で作成してください（英語等は不可）。
- 4 解答時間は正味1時間です。
- 5 この試験問題の余白を論文の下書用紙として利用してください。
- 6 この試験問題は、持ち帰りできます。

指示があるまで中を開いてはいけません。



このページは白紙です。

A

カナダのカーニー首相が 2026 年 1 月 20 日に世界経済フォーラム年次総会で行った演説の要約（別紙）を、次のような国際政治学と歴史学の知見を用いて読み解くことを試みる。

- ・リアリズム的世界観のレンズ：国際社会には主権国家を超える権威が存在していない（無政府状態）。従って、各国は安全の確保を目標として設定し、その手段であるパワーを追求する。国際秩序は覇権国の能力に依存する。
- ・リベラリズム的世界観のレンズ：国家が合理的であれば、無政府状態の下でも共通の利益のために制度を通じて協力が可能である。国際制度や相互依存は紛争を抑制する方向で働き、国際秩序はルールと規範で維持される。
- ・構成主義的世界観のレンズ：国際社会の無政府状態の意味（敵対、競争、協力）や何を国益とみなすかは社会的に構成される。国家の行動は、行為に意味を付与する内面化された規範、理念や自画像（守護者、改革者）により形成される。
- ・ポストモダン史学のレンズ：歴史叙述は過去の事実の客観的な再現でなく、喩法や物語による意味生成の過程である。同じ事象も配置される筋立てにより意味が変化する。筋立ては、騎士道ロマンス（英雄の超越的な勝利と帰還）、喜劇（対立が社会的な調整で和解）、悲劇（構造的な制約と誤認の累積による破局）、諷刺（世界に関する洗練された理解の拒絶）の 4 種に大別される。

- (1) カーニー演説に含まれるリアリズム、リベラリズム、構成主義的な世界観を体現する要素をそれぞれ指摘しなさい。
- (2) カーニー演説を一貫して読み解くレンズをリアリズム、リベラリズム、構成主義に取り換えていくと、この演説が何を語っているかという理解にどのような違いが生ずるか、三通りの解釈を示しなさい。
- (3) ポストモダン史学の分析枠組を適用すると、カーニー演説はどのような筋立てを組み合わせるとどのような事象の意味の構築と伝達を意図していると解し得るかを論じなさい。
- (4) カーニー演説を国際政治学や歴史学のレンズを用いて読解する場合とレンズを用いない読解にはどのような違いが生じ得るかを述べ、国際事象を読み解く際にこうしたレンズを具備することの意義を論じなさい。

世界経済フォーラム年次総会におけるカーニー首相演説（2026. 1. 20）の要約

大国の地政学が一切の制約を受けない残酷な現実が始まったが、中堅国も無力ではなくその価値観を体现する新たな秩序構築の能力を持っている。

ルールに基づく秩序は衰えつつある。「強者がしたいことをして、弱者はそれを耐え忍ぶ」という論理に直面し、各国は迎合し、従順であることにより安全を買おうとする。しかし、そうはいかない。では、我々にはどのような選択肢があるのだろうか。

体制の力は、そこに真実があるからではなく、真実であるかのように振る舞おうとする皆の意思から生まれる。たった一人でも演技をやめればその幻想はひび割れ始める。看板を下ろす時が来た。中堅国は「ルールに基づく国際秩序」の下で繁栄した。この物語が部分的に虚構であることは知っていたが、この虚構は便利で、米国の覇権は開かれた海上航路や集団安全保障等の公共財の創出につながった。それ故に、我々は看板を掲げ儀式に参加した。この取引はもう機能しなくなっている。

我々は断絶のまっただ中にいる。大国は経済統合を武器として利用し始めた。統合が従属の源泉となるのであれば、相互利益という「嘘の中で生きる」ことはできない。多くの国が戦略的自律性の確保という結論に至っている。しかし、要塞化された世界は貧しく、脆弱で、持続可能性に欠ける。大国がルールや価値観の体裁すら捨てれば、「取引主義」の利益の再現が困難となり、継続的に関係を金銭化できなくなる。同盟国は不確実性をヘッジするため多角化を進め、主権を再構築する。ルールに根差していた主権は圧力に耐える能力に依拠するようになる。このリスク管理には代償が伴うが、戦略的自律性のコストは共有可能で、共通の基準は分断を軽減し、相互補完はポジティブ・サムをもたらす。

カナダはこの警鐘をいち早く受け止め、戦略的姿勢を根本的に転換した。国民は地理的な条件と同盟関係が自動的に繁栄と安全をもたらすという安楽な設想がもはや通用しないことを理解している。我々のアプローチは「価値に基づく現実主義」つまり原則に基づきつつ現実的であることに根差している。主権と領土の一体性、武力行使の原則禁止、人権尊重という基本的価値への揺るぎない姿勢を保つ。すべてのパートナーが価値観を共有しているわけではないことを認識しつつ、広範かつ戦略的に現実を直視しながら関係構築を進めていく。理想とする世界を待つのではなく、あるがままの世界に主体的に向き合う。価値観の力だけに頼るのではなく、自国の力の価値を頼りにしていく。これは甘い考えの多国間主義ではなく、衰退した国際機関への依存でもない。共通の基盤を共有して行動するパートナーと、課題毎に機能する連合を構築する取組である。密接な連携網を構築し、将来の課題と好機に対応する基盤を築いていく。

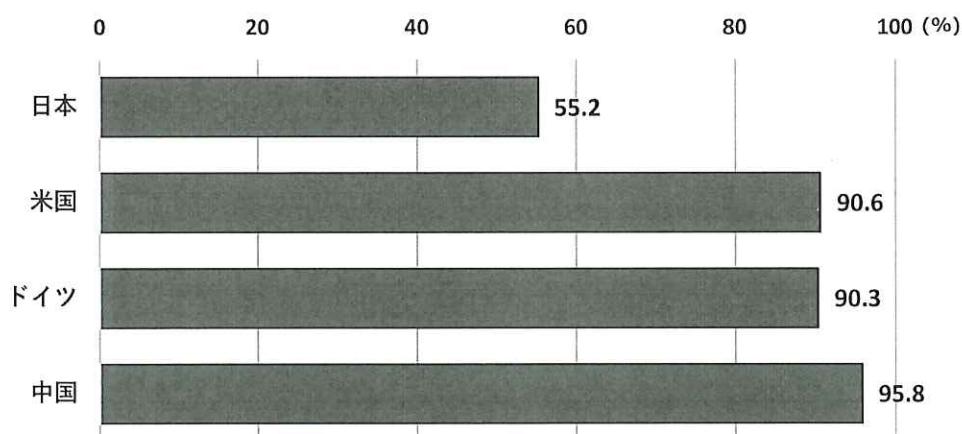
中堅国は結束して行動しなければならない。席に着かなければ自分が食われてしまう。大国には単独行動の余地がある。中堅国にはそれができない。覇権国との二国交渉では弱い立場に置かれ、提示された条件を受け入れ、中堅国の間で譲歩を競い合うことになる。これは主権ではない。従属を受け入れつつ主権を演じているに過ぎない。大国間競争が激化する世界において、その狭間に位置する国々には、大国の歓心獲得を競い合うか、結束して影響力を持つ第三の道を切り拓くかという選択肢がある。力の台頭に目を奪われ、共に行使することを選べば正統性・高潔性・規範の力が持続することを見失ってはならない。「ルールに基づく国際秩序」を引き合いに出すことをやめ、大国が経済統合を武器に利益を追求する大国間競争をありのままに認めるべきである。古い秩序の復活を待つのではなく、文字通り機能する制度や合意を創出すべきである。国は報復に対する脆弱性を減らすことで原則に基づく立場をとる権利を得ることができる。

カナダには現状を認識し行動する決意がある。古い秩序は戻らず、過去を懐かしむことは戦略ではない。この断絶から、より良く、より強く、より公正なものを築くことはできる。これが、要塞化された世界で失うものが多く、真の協力の世界で得るものが多い中堅国の責務である。強国には力があるが、中堅国にも偽りをやめ、現実を直視し、国内で力を蓄え、共に行動する力がある。これがカナダの道である。この道は、我々と共に歩む意思のあるすべての国に広く開かれている。

B

現在、ChatGPT など、種々の AI が実用に付されており、また web ブラウザまでも標準実装されている。企業においては顧客サービスにチャットボットを活用することなどが一般化しており、通常の業務において AI を導入している例は枚挙にいとまがない。しかしなお、未だ日本人の多数において、AI は「質問をするだけのもの」、「補助的に使うもの」という認識に留まっており、諸外国に比して利用率が非常に低い。¹⁾この要因のひとつは、特定のタスクのみで雇用され、自身が AI にその雇用を奪われるという危機意識が高い諸外国と、仕事が属人的で非定型業務構造を持ち「企業によって守られている」安心感がある日本との意識の差にあると思われる。このような意識は、はなはだ心許なく、安心感にあぐらをかく危機感に欠けるものである。近時、経済産業省は AI やロボットの開発・活用などを担う技術者などの専門人材が 2040 年に 339 万人不足すると推計していると報道された。これは上記のような甘い認識への警報だと受け取って差し支えない。少子化による人口減少や、諸外国との競争を考えると、AI 技術の導入は、今後の多分野の発展における不可逆的要素であると認識し、日本は業務の更なる効率化・最適化・高付加価値化を指向して、AI 活用の利点を最大化させなければならないのは必至である。なお、防衛省においても「変革の起爆剤」として「AI 導入推進チーム」を 2026 年 1 月に新設している。今後の職業人は、業務においてどのようにして AI の強みを最大限発揮させるのがよいのか、自身の展望を記せ。

1) 企業における業務での生成 AI 利用率 (国別)



(出典) 総務省 (2025) 「国内外における最新の情報通信技術の研究開発及びデジタル活用の動向に関する調査研究」

このページは白紙です。